

令和4年度 北海道文化財年報

「足寄動物群束柱類化石（アシヨロア ラティコスタ）」（足寄町）



「銀鱈荘旧本館」（小樽市）



「グリル銀鱈荘」（小樽市）



「北海道大学空沼小屋」（札幌市）

令和5年9月

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

はじめに

北海道には、長い間受け継がれてきた貴重な文化財が数多く残されています。これらは、北海道の歴史や文化を正しく理解するために欠かせないものであり、次の世代に確実に守り伝えていく必要があります。

文化財を保護するためには、調査や保存・整備・修理だけではなく、公開や情報発信を積極的に行い、その価値や魅力を多くの人々が共有することが大切です。北海道教育委員会では、文化財の価値を正しく理解し、地域全体で後世に伝えていくため、文化財に親しむ機会の提供や多様な情報の発信などを通して、文化財の保存・活用に取り組んでいます。

この年報では、「銀鱗荘旧本館」、「北海道大学空沼小屋」など、新たに指定・登録された文化財や、北海道教育委員会が実施した文化財の各種調査や保存・整備、普及活用事業など、この一年間の文化財保護の歩みについて、写真・イラストを用いてわかりやすく紹介しています。

この年報を御活用いただき、文化財をより身近に感じていただければ幸いです。

【表紙の写真】

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ○道指定天然記念物「足寄動物群束柱類化石」 | 令和4年9月30日指定 |
| ○登録有形文化財「銀鱗荘旧本館」 | 令和5年2月27日登録 |
| ○登録有形文化財「グリル銀鱗荘」 | 令和5年2月27日登録 |
| ○登録有形文化財「北海道大学空沼小屋」 | 令和4年6月29日登録 |

詳しくは、2ページ以降で紹介しています。

目 次

I 令和4年度文化財保護の主なあゆみ

1	新たに指定・登録された文化財	P 2
	(1) 道指定文化財	P 3
	(2) 国登録文化財	P 4
2	世界遺産を活用した次世代育成事業について	P 7
	(1) 縄文遺跡を紹介するデジタルコンテンツの作成	P 7
	(2) ゲストティーチャー授業の実施	P 8
	(3) 世界遺産子どもサミット2022の開催	P 8
3	古代集落遺跡群の保護について	P 11
	(1) 北海道東部の竪穴住居跡群調査	P 11
	(2) 北海道古代集落遺跡群保存活用協議会	P 11
4	日本遺産 (Japan Heritage) について	P 12
5	北海道文化財保護強調月間について	P 17
6	アイヌ民俗文化財の保存・伝承	P 19
	(1) アイヌ民俗文化財調査事業	P 19
	(2) アイヌ民俗文化財伝承・活用事業	P 19
7	指定文化財の保存整備(国庫補助事業)	P 20
	(1) 重要文化財	P 20
	(2) 重要伝統的建造物群保存地区・重要文化的景観	P 24
	(3) 史跡・名勝・天然記念物	P 25
8	埋蔵文化財保護のための事前協議	P 28
9	埋蔵文化財の保護(国庫補助事業)	P 30
10	発掘調査	P 32

II 資料編

1	文化財	
	(1) 文化財の指定状況(国指定・道指定)	P 33
	(2) 国指定・選定文化財一覧	P 34
	(3) 道指定文化財一覧	P 42
	(4) 管内別市町村指定等文化財一覧	P 48

(5)	登録文化財一覧	P 49
(6)	令和4年度北海道文化財保護強調月間実施事業一覧	P 53
(7)	文化財パトロール	P 64
(8)	史跡名勝天然記念物の現状変更等許可件数	P 64
(9)	銃砲刀剣類の登録状況	P 65
2	埋蔵文化財	
(1)	市町村別埋蔵文化財包蔵地一覧	P 66
(2)	埋蔵文化財保護のための事前協議件数と 北海道実施の所在・試掘調査一覧	P 67
(3)	北海道実施の管内別埋蔵文化財所在調査・試掘調査一覧	P 67
(4)	管内別発掘調査一覧	P 67
(5)	周知の埋蔵文化財包蔵地での工事の届等件数	P 67
(6)	埋蔵文化財包蔵地の発見届等	P 68
(7)	出土文化財認定件数と出土遺物量	P 68
(8)	出土文化財譲与件数	P 68
3	その他	
(1)	北海道教育推進計画	P 69
(2)	令和4年度北海道教育委員会の活動状況に関する点検・評価	P 71
(3)	北海道文化財保護審議会	P 73
(4)	北海道文化財保護審議委員一覧	P 73
(5)	銃砲刀剣類登録審査会	P 73
(6)	北海道銃砲刀剣類登録審査委員	P 74
(7)	北海道立埋蔵文化財センター	P 74
(8)	北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会	P 76
(9)	北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会有識者一覧	P 76
(10)	北海道古代集落遺跡群保存活用協議会代表者会議	P 76
(11)	文化財情報の発信	P 77
(12)	文化財関係機関・団体リンク	P 77

I 令和4年度文化財保護の主なあゆみ

○ 新指定(道指定)の文化財

足寄町の「足寄動物群束柱類化石」(天然記念物)が指定されました。

○ 新指定(国指定・国登録)の文化財

札幌市の「北海道大学空沼小屋」、小樽市の「銀鱗荘旧本館」「グリル銀鱗荘」が登録有形文化財に登録されました。

○ 世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」保護の取組

北海道内の構成資産・関連資産や出土品等を解説するデジタルコンテンツを作成し、このコンテンツも使用した小学生、中学生及び高校生を対象とするゲストティーチャー授業を実施したほか、北海道・青森県・秋田県・岩手県の小中学校や団体の児童生徒が日頃の世界遺産学習や取組の成果を発表する世界遺産子どもサミット 2022を開催しました。

○ 北海道文化財保護強調月間の取組

北海道教育委員会は関係機関5者と共同で、平成20年度から毎年10月8日～11月7日を北海道文化財保護強調月間に設定しています。この月間の設定は、道内にある貴重な文化財の価値を正しく理解し、地域全体で後世に伝えていくため、子どもたちや地域の人々が文化財に親しむ環境づくりの推進を目的としたものです。

○ アイヌ民俗文化財の保存・伝承

かんなり金成マツノートの整理・翻訳等の実施、及び令和4年度アイヌ民俗文化財調査報告書を刊行しました。

○ 文化財の保存整備

北海道や市町村が主体となって、国庫補助を活用した重要文化財の保存・修理や史跡整備などの保存整備事業を50件実施しました。

○ 埋蔵文化財の保護

埋蔵文化財については、開発事業に伴う105件の所在調査・試掘調査を実施し、開発計画の変更や、事前の発掘調査を求めるなどの調整を行いました。

埋蔵文化財の発掘調査は54件が実施されました。

1 新たに指定・登録された文化財

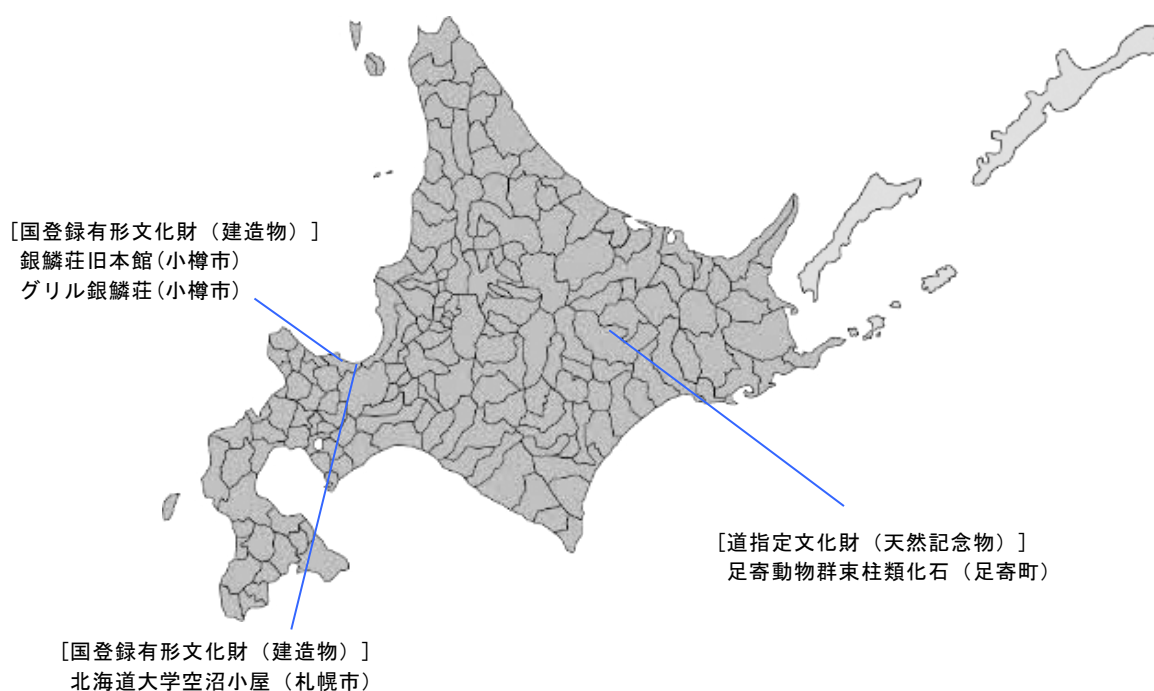
道指定の天然記念物が1件、国登録の有形文化財（建造物）が2件ありました。

(1) 道指定文化財

- 天然記念物 [令和4年9月30日付け]
「足寄動物群束柱類化石」（足寄町）

(2) 国登録文化財

- 有形文化財（建造物） [令和4年6月29日付け]
「北海道大学空沼小屋」（札幌市）
- 有形文化財（建造物） [令和5年2月27日付け]
「銀鱗荘旧本館」（小樽市）
「グリル銀鱗荘」（小樽市）



(1) 道指定文化財

① 天然記念物

「足寄動物群束柱類化石」(あしよろどうぶつぐんそくちゅうるいかせき)

【登録日】令和4年9月30日

【所在地】足寄郡足寄町郊南1丁目29番地25 足寄動物化石博物館

【解説】足寄町・茂螺湾川流域の茂螺湾層で発見された2体の化石標本。

束柱類化石アショロア骨格は、世界最古の束柱類化石のひとつで、足寄町から新属新種として記載されたアショロア ラティコスタ *Ashoroa laticosta* Inuzuka 2000のみが知られています。また、束柱類化石ベヘモトプス骨格は、原始的な束柱類化石で、日本では足寄町から新種として記載されたベヘモトプス カツイエイ *Behemotops katsuiei* Inuzuka 2000のみが知られています。これらはいずれも世界で唯一の束柱類化石の骨格標本であり、束柱類の起源と進化を考察する上で、学術的な価値が極めて高いものです。



提供：足寄町教育委員会

(2) 国登録文化財

② 有形文化財（建造物）

「北海道大学空沼小屋」(ほっかいどうだいがくそらぬまこや)

【登録日】令和4年6月29日

【年代】昭和3年12月10日建設（平成28年改修）

【所在地】札幌市南区常盤 石狩森林管理署 1157 イ林小班

【解説】札幌南郊、空沼岳の万計沼畔に所在する北海道大学の山小屋。

札幌南郊、秩父宮雍仁親王の発意によりスイス人建築家マックス・ヒンデルが設計し、登山者が集えるストーブ周りの吹抜や、32人を収容可能な二階の寝所など、機能的で良質なスイス風の山小屋で、北海道戦前期のログ工法建築の数少ない遺構です。



提供：札幌市教育委員会

「銀鱗荘旧本館」(ぎんりんそうきゅうほんかん)

【登録日】令和5年2月27日

【年代】明治後期建設(昭和13年移築)

【所在地】小樽市桜1丁目1番地

【解説】余市に所在した望楼付きニシン漁主屋を移築・改修した宿泊施設。

50畳もの大広間に堂々とした床構えで、神棚や囲炉裏等がニシン漁で栄えた時代を伝える、意匠を凝らした近代和風ホテルです。



提供：銀鱗荘

「グリル銀鱈荘」(ぐりるぎんりんそう)

【登録日】令和5年2月27日

【年代】明治後期建設(昭和16年移築・昭和44年改修)

【所在地】小樽市桜1丁目1番地

【解説】ニシン倉庫を昭和16年に余市から移築し、水産記念館とした建物。

入母屋造りの玄関を構え、虫籠窓(むしこまど)を並べた漆喰塗込めの外観と、内部の太い柱梁は重厚で、現在はレストランとして活用しています。



提供：銀鱈荘

2 世界遺産の保護に向けた取組について

(1) 縄文遺跡を紹介するデジタルコンテンツの作成

令和3年(2021年)7月の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産の登録を受け、児童生徒の縄文遺跡への関心を高め、授業で活用することにより、歴史・文化の理解、郷土への誇りと愛着の醸成へとつなげることを目的として、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の北海道内の構成資産・関連資産や出土品等を解説するデジタルコンテンツを作成しました。

作成したコンテンツは、360°カメラ及びドローンで遺跡を撮影し、遺跡の景観や解説板を見ながら探索したり堅穴住居の中に入ることができるVRツアーデータと、世界文化遺産の構成資産からの出土品を中心として作成した、画面上でいろいろな方向から出土品を見ることができる3Dデータです。

これらのデータは、北海道教育委員会のホームページ「学んでみよう～北海道の縄文遺跡」で公開しています。

(VRツアーデータを作成した遺跡)

函館市大船遺跡、伊達市北黄金貝塚、千歳市キウス周堤墓群、森町鷺ノ木遺跡

(3Dデータを作成した出土品)

足形付土版(函館市垣ノ島遺跡出土)、円筒下層式土器(函館市ハマナス野遺跡出土)、石棒(千歳市キウス周堤墓群出土)、土面(千歳市ママチ遺跡出土)、漆製品(恵庭市カリンバ遺跡出土)、鯨骨製匙形製品・鹿角製匙形製品(伊達市北黄金貝塚出土)、鐸形土製品(森町鷺ノ木4遺跡出土)、猪牙製品・円筒上層式土器・入江式土器(洞爺湖町入江貝塚出土)ヒスイ製勾玉(洞爺湖町高砂貝塚出土)

学んでみよう～北海道の縄文遺跡

URL:<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/147722.html>



(VR) 伊達市北黄金貝塚の堅穴住居



(VR) 函館市大船遺跡のドローン画像



(VR) 森町鷺ノ木遺跡の環状列石



(3D) 足形付土版(函館市垣ノ島遺跡出土)

(2) ゲストティーチャー授業の実施

小学生、中学生及び高校生を対象とするゲストティーチャー授業を、14校で実施しました。回線等の都合による一部を除き、児童生徒が使用している「一人一台端末」で縄文遺跡群を紹介するデジタルコンテンツを操作するとともに、実物の縄文時代の土器片や石器を手にとって観察してもらいました。

今回、授業前と授業後に、縄文時代のイメージについて質問を行ったところ、「土器」、「竪穴住居」、「狩り」といった単語で表現された認識が、「衣服や装飾品に対する手先の器用さ」や「変化する自然環境に対する暮らしの工夫」など、文章で具体的に認識を示す傾向が見られ、デジタルデータによる解説や実物に触れることの効果が窺えました。



ゲストティーチャー授業の様子

(3) 世界遺産子どもサミット 2022 の開催

世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産が所在する自治体の小・中学生が、それぞれの遺跡での学習や活動の成果を発表し、相互の縄文遺跡の保護や活用等にも興味を広げることにより、各地での遺跡保護や活用の取組をより一層推進するため、令和4年(2022年)11月26日にオンラインで開催しました。

当日は筑波大学芸術系教授黒田乃生氏に「地域と世界をつなぐ世界遺産学習」と題した講演を頂き、北海道、青森県、秋田県及び岩手県の小中学校や団体の児童生徒が日頃の学習や取組の成果を発表し、共同宣言を採択しました。

○発表者と発表の概要

・函館市立臼尻中学校（3名）

大船遺跡・垣ノ島遺跡の見学を通じた学習への取り組みや、南茅部地区内の小学校・中学校・高校が連携して行う交流会などの縄文学習について発表しました。

・千歳市立千歳第二小学校（58名）

キウス周堤墓群を中心とした世界遺産についての調べ学習、見学や校庭での周堤墓製作体験等の学習成果を、児童が作成した動画を用いて発表しました。

・洞爺湖町内小学校6年生（5名）

町内の入江・高砂貝塚を題材とした調べ学習、縄文土器作りなどの体験学習で学んだ内容や感じたことを発表しました。

・青森県青森市立三内中学校（2名）

三内丸山遺跡を対象とした、小中一貫教育を活かした独自の教育カリキュラムである「三内丸山学」について、学習・活動の内容を紹介しました。

・秋田県北秋田市伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイド（2名）

小学生、中学生、高校生のメンバーからなる伊勢堂岱遺跡ジュニアボランテ

ガイドの活動内容、活動を通して学んだこと、今後の目標について発表しました。

・岩手県一戸町御所野愛護少年団（3名）

御所野遺跡のPRや子どもガイドなど御所野愛護活動の内容や、繊維や住居についての実験の結果を、クイズを交えて発表しました。



世界遺産子どもサミット2022 発表の様子

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産子どもサミット2022

共同宣言

2021年7月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されて、まちの宝が世界の宝となりました。

そして今日、世界遺産でのわたし達の取り組みを発表し、それぞれの活動を聞くことで、縄文遺跡の魅力をあらためて確認しました。

わたし達は、この成果を地域に広げ、多くの人と協力しながら、世界遺産となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」を未来へ受け継ぐため、ここに宣言します。

わたし達は、

- わたし達のまちの縄文遺跡を、これからも、学び続けます。
- わたし達のまちと縄文遺跡を、多くの人に、伝えていきます。
- それぞれのまちの縄文遺跡を、仲間達と協力して受け継ぎます。
- それぞれのまちと縄文遺跡を受け継ぐため、人と人とのつながりを大切にします。

2022年11月26日

函館市立白尻中学校

千歳市立千歳第二小学校

洞爺湖町小学6年生

青森市立三内中学校

北秋田市伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイド

一戸町御所野愛護少年団

(4) 北海道世界文化遺産活用推進実行委員会

北海道に初めて誕生した世界文化遺産の顕著な普遍的価値の普及・啓発を通じて北海道の歴史と文化に対する住民の認識と郷土への理解・愛着を深め、これによる地域の活性化や次世代の文化遺産保存・活用の担い手育成を図ることを目的として、令和4年3月にこの実行委員会が設立されました。文化財・博物館課はその事務局業務を行っています。

令和4年度は文化庁の「文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）」の交付を受け、人材育成事業・普及啓発事業及び調査研究事業を行いました。事業の内容や成果等は実行委員会ウェブサイトをご参照ください

北海道世界文化遺産活用推進実行委員会
URL: <https://www.ecpuwchh.org/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



世界文化遺産に親しむオンライン教材



調査研究報告書

(5) 縄文遺跡群の保存活用推進体制への参加

北海道と北東北三県では、各道県の知事、構成資産を有する市町長及び教育長で構成する縄文遺跡群世界遺産本部を設置しました。その監督下に縄文遺跡群世界遺産協議会が設置され、各道県の部会で道県内の連絡調整・情報提供を行っています。

北海道部会では、令和3年度に道の関係部局、国の行政機関、教育関係機関、縄文遺跡に関する民間団体、経済団体や民間事業者も含めた「北の縄文・官民連携プラットフォーム」を設置し、情報効果や項別事項の検討を行っています。

令和4年度は、担当者間で意見・情報交換を行う企画調整ワーキングチームと経済観光ワーキングチームも追加され、文化財・博物館課では、企画調整ワーキングチームに参加し、縄文遺跡へ誘導するための道路標識やガイドのあり方等といった具体的なテーマについて、意見交換を行いました。

3 古代集落遺跡群の保護について

(1) 北海道東部の竪穴住居跡群調査

北海道には、先史時代の住居跡が窪みとして残り、それらが密集して分布する竪穴住居跡群(以下、竪穴群と略称)が多く確認されています。特に道内東部には、国内には他に例のない大規模な竪穴群がいくつも見られ、北海道を代表する文化財のひとつとして挙げるすることができます。

北海道教育委員会では、道内の関係遺跡を把握するための竪穴群調査を平成27年度から開始しました。平成27年度から29年度まで第1次調査、平成30年度から令和3年度までの4カ年計画で第2次調査を実施しました。

令和4年度から引き続き第3次調査計画を策定し、総合調査では浜頓別町の竪穴群を対象に竪穴の位置記録や保存状況を確認する現況調査を行いました。また、北海道立埋蔵文化財センター指定管理者が指定管理業務(重要遺跡確認調査)として、興部町興部豊野竪穴群(B)の調査を実施しました。

竪穴群に関する関係情報は次のページで公開しています。

◆「竪穴群ポータル」ホームページ：<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/pd/portal.htm>

(2) 北海道古代集落遺跡群保存活用協議会

竪穴住居跡群をはじめ、これらに伴う貝塚や墳墓からなる古代の集落跡群について、文化財としての価値の明確化と発信のために道内自治体ほか関係団体間で合意形成し情報を共有することを目的として、令和3年度に北海道古代集落遺跡群保存活用協議会を設置しました。今後、遺跡群の内容及び価値について専門家による意見も聴取しながら、保存と活用を進めていきます。



湧別町道指定史跡「シブノツナイ竪穴住居跡」

オホーツク海に面する遺跡で、写真中央の牧草地に、一辺の長さが2mから11m、深さ0.3mから1mの方形や円形の窪み(竪穴)が530基分布する。

4 日本遺産 (Japan Heritage) について

「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを国が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

道内の日本遺産 (Japan Heritage) 認定概要

[平成 29 年度認定]

① 江差町

《江差の五月は江戸にもない ―ニシン繁栄が息づく町―》

(ストーリーの概要)

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられている。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえる。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の取引によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどであった。

ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいている。



「ニシンによる繁栄が息づく江差の町並み」

【令和 4 年度の取組】

- ・どさんこプラザ「春の檜山フェア」でのPR
- ・江差かもめ島まつりで「海の美術館」（日本遺産認定ストーリー企画展開催）
- ・海ノ民話のまちプロジェクト（構成文化財「折居伝説アニメ化」）

- ② 函館市・松前町・小樽市・石狩市（北海道）、鱒ヶ沢町・深浦町・野辺地町（青森県）、秋田市・にほか市・男鹿市・能代市・由利本荘市（秋田県）、酒田市・鶴岡市（山形県）、新潟市・長岡市・佐渡市・上越市・出雲崎町（新潟県）、富山市・高岡市（富山県）、加賀市・輪島市・小松市・金沢市・白山市・志賀町（石川県）、敦賀市・南越前町・坂井市・小浜市（福井県）、宮津市（京都府）、大阪市・泉佐野市（大阪府）、神戸市・高砂市・新温泉町・赤穂市・洲本市・姫路市・たつの市（兵庫県）、鳥取市（鳥取県）、浜田市（島根県）、倉敷市（岡山県）、尾道市・呉市・竹原市（広島県）、多度津町（香川県）

平成 30 年度追加

※小樽市・石狩市（北海道）、野辺地町（青森県）、にほか市・男鹿市・能代市・由利本荘市（秋田県）、佐渡市・上越市（新潟県）、輪島市・小松市（石川県）、坂井市・小浜市（福井県）、宮津市（京都府）、大阪市（大阪府）、神戸市・高砂市・新温泉町・赤穂市・洲本市（兵庫県）、鳥取市（鳥取県）、浜田市（島根県）、倉敷市（岡山県）、尾道市・呉市（広島県）

令和元年度追加

※鶴岡市（山形県）、出雲崎町（新潟県）、金沢市（石川県）、姫路市、たつの市（兵庫県）、竹原市（広島県）、多度津町（香川県）

令和 2 年度追加

※白山市、志賀町（石川県）、泉佐野市（大阪府）

《荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～》

（ストーリーの概要）

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。

また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。



「函館山」



「松前屏風」

【令和4年度の取組】

- ・北前船講習会（北前船オンラインセミナー）の開催（5回）
- ・日本遺産フェスティバルや日本遺産の日等関連イベントでのPR
- ・情報誌「港湾」へ北前船関連記事を寄稿（全15回）
- ・北前船寄港地フォーラム（パリ、沖縄）への協力

[平成30年度認定]

上川町、旭川市、富良野市、愛別町、上士幌町、上富良野町、鹿追町、士幌町、新得町、当麻町、東川町、比布町

《カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～》

（ストーリーの概要）

美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きた“上川アイヌ”。

彼らは激流迸る奇岩の溪谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地には、クマ笹で葺かれた家などによりコタンを形成し祈りを捧げ続ける。

上川アイヌは「川は山へ遡る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミントラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきた。

神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいている。



「大雪山の雄大な自然」

【令和4年度の取組】

- ・ツーリズムEXPOジャパンでのPR
- ・日本遺産フェスティバルや日本遺産の日等関連イベントでのPR

[令和元年度認定]

赤平市、小樽市、室蘭市、夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、三笠市、栗山町、月形町、沼田町、安平町

《本邦国策を北海道に見よ！～北の産業革命「炭鉄港」～》

(ストーリーの概要)

明治の初めに命名された広大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」・「鉄鋼」・「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。

100 km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらします。



【令和4年度の取組】

- ・炭鉄港めし普及啓発（スタンプラリー・レシピコンテスト・ガイドブック制作・フェスティバルへの出展、全道約1000店舗のセブンイレブンで炭鉄港めしを販売等）
- ・炭鉄港ガイド養成
- ・ガイド付きミニツアーの実施
- ・炭鉄港出前講座の開催

[令和2年度認定]

標津町、根室市、別海町、羅臼町

《鮭の聖地の物語～根室海峡一万年の道程～》

(ストーリーの概要)

北海道最東の海、根室海峡。この地では、遥か一万年の昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。毎年秋に繰り返される鮭の遡上という自然の摂理の下、当地では人と自然、文化と文化の共生と衝突が起こり、数々の物語と共に、海路、陸路、鉄路、道路という、根室海峡に続く「道」が生まれます。一万年に及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここはいまも、人と自然、あらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。



「鮭山漬け寒風干し」



「野付半島」



「標津遺跡群伊茶仁
カリカリウス遺跡」

【令和4年度の取組】

- ・京都での特別展「幕末会津藩と鮭の聖地」開催
- ・サブストーリー動画（4テーマ）製作
- ・統一デザイン文化財サイン整備
- ・サテライト拠点施設整備(根室市歴史と自然の資料館、別海町加賀家文書館、別海町奥行臼駅通所、羅臼町郷土資料館での多言語対応、Wi-fi 整備)
- ・オリジナルグッズ製作
- ・構成文化財カードファイル制作
- ・鮭の聖地トラストプログラム製作（飲食店とのコラボ事業）

5 北海道文化財保護強調月間について

平成20年度に、北海道教育委員会、札幌市、北海道都市教育委員会連絡協議会、北海道町村教育委員会連合会、北海道文化財保護協会及び北海道博物館協会の6者は共同で、毎年10月8日～11月7日の期間を、「北海道文化財保護強調月間」として設定しました。

期間中には、各市町村教育委員会や道内の博物館等の協力により、道内にある貴重な文化財の価値を正しく理解し、地域全体で後世に伝えていくため、子どもたちや地域の人々が文化財に親しむ環境づくりの推進を目的として、文化財公開・活用事業（指定文化財の一般公開や文化財に関連する事業）を実施しています。

なお、第15回北海道文化財保護強調月間ポスターには、令和3年度に世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」に係る北黄金貝塚の写真に掲載したほか、（一財）北海道文化財保護協会主催の「子どもの文化財愛護活動推進事業」における体験活動の写真に掲載し、文化財への興味・関心の醸成、保存・活用の啓発に努めました。

今後も、市町村教育委員会等の協力を得ながら、様々な形で、児童・生徒の皆さん、そして、広く道民の方々が文化財を身近に感じ、親しんでいただく機会の提供に取り組めます。

・文化財保護強調月間ホームページ

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kyoutyougekkkan.htm>

「北海道文化財保護強調月間」の設定の趣旨

私たちの郷土・北海道には、豊かな自然や北国の風土の中で育まれてきた縄文時代の遺跡やアイヌの人たちの伝統的な文化をはじめ、全国各地からの移住や北海道開拓によりもたらされた多様な文化財が数多く残されています。

これらの文化財は、本道の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、現代を生きる私たちに、先人の知恵と技を伝え、日々の暮らしに精神的な豊かさや潤いをもたらす道民の貴重な共有財産です。

しかし、一方で、長い歴史の中で受け継がれてきた文化財の中には、社会構造の変化や少子・高齢化の進行などに伴い、保存や伝承が困難となっているものもあるため、文化財に対する親しみや理解を深めながら、次世代に確実に守り伝えていくことが、いま、課題となっています。

私たち6団体は、市町村教育委員会や関係団体の皆様方と連携協力し、道民の方々が文化財に親しむ環境づくりを推進するとともに、貴重な文化財を地域全体で継承していくため、国の「文化財保護強調週間」や「北海道教育の日」との連動を図り、新たに、毎年10月8日から11月7日までを「北海道文化財保護強調月間」として設定することをここに宣言します。

平成20年7月17日

第15回北海道文化財保護強調月間

令和4年10月8日(土)~11月7日(月)



未来に伝える北海道の文化財



写真：子どもの文化財保護活動推進事業
「鱈子化石貝類体験ツアー」
主催：(一財)北海道文化財保護協会
展示：黒教内町立別荘

写真：子どもの文化財保護活動推進事業
「しめ飾りづくりと紙づくり体験教室」
主催：(一財)北海道文化財保護協会
協賛：(一財)北海道歴史文化財団
会場：北海道網走市

見て感じ 心にきざむ 文化財

写真：北青会員様 全景（出典：JOMON ARCHIVES〈縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会撮影〉（伊達市教育委員会所蔵））

北海道教育委員会は、道内の貴重な文化財を守り伝えるために、毎年10月8日から11月7日を「北海道文化財保護強調月間」と定め、市町村の教育委員会や文化財に関する団体と連携して、文化財の公開や展示会、講演会の開催など、道民の皆様が文化財に親しむことのできる環境づくりを進めています。



共同設定団体

北海道教育委員会／札幌市／北海道都市教育委員会連絡協議会
北海道町村教育委員会連合会／(一財)北海道文化財保護協会／北海道博物館協会
お問い合わせ先

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

TEL(011)204-5749 URL: <http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/>



北海道文化財保護強調月間ポスター

6 アイヌ民俗文化財の保存・伝承

北海道の貴重な文化的所産であるアイヌ文化は、伝承者の高齢化などにより世代間の伝承が難しい現状にあり、記録等を行うことが困難となる可能性があります。このため、北海道教育委員会は、アイヌの人たちの諸文化を調査・記録するとともに、地域の伝承活動を支援し、貴重なアイヌ文化を次世代に継承するため、様々な事業を行っています。

(1) アイヌ民俗文化財調査事業

アイヌ民俗文化財に係る調査等を行い、報告書を刊行しました。報告書はアイヌ文化に係る道内外の研究機関及び大学図書館、主要な公立図書館等に配付し、活用を図りました。

[金成マツノート整理・翻訳、刊行]

ユーカラ等の口承文芸をローマ字で記録した伝承者・金成マツのノートを整理・翻訳し、その成果を次の3冊の報告書として刊行しました。

- ・ユーカラシリーズ 71

『金成マツ筆録アイヌ叙事詩「メナシサムの厚司メナシサムの帽子（2）」』

蓮池悦子 訳

- ・ユーカラシリーズ 72

『金成マツ筆録アイヌ叙事詩「笹伏せ（1）」』

萱野志朗 訳

- ・ユーカラシリーズ 70

『金成マツ筆録アイヌ叙事詩「女性叙事詩 小鳥の耳飾り（2）」』

高橋靖以 訳

[令和4年度アイヌ民俗文化財調査報告書]

アイヌの人たちが祖先から伝承してきた生活や生産生業に関する民俗技術について、テーマを設定して調査を実施し、報告書を刊行しました。

- ・生活習慣（食）に関する民俗技術1 藤村久和、花輪陽平 著

(2) アイヌ民俗文化財伝承・活用事業

アイヌ文化への理解を促進し、アイヌ民俗文化財を保存・伝承するため、伝統的な民俗技術及び民俗芸能を学ぶことを目的とした次の事業を実施しました。

- ① アイヌ民俗技術伝承講座：道内5会場
(延べ60講座、延べ参加人員471人)
- ② アイヌ民俗芸能伝承講座：道内5会場
(延べ40講座、延べ参加人員332人)



アイヌ古式舞踊練習風景

7 指定文化財の保存整備(国庫補助事業)

指定文化財の保存整備等を図るため、北海道・市町村などが主体となって国庫補助を活用し、重要文化財の建物や、歴史資料の保存・修理、史跡・名勝の保存・整備の事業を行いました。

(1) 重要文化財

● 建造物

種別	名称	概要	事業者
重要文化財 (建造物)	遺愛学院 (旧遺愛女 学校) 本館	遺愛学院(旧遺愛女学校)本館は、北海道における木造学校建築の代表作の一つとして高い価値があり、明治後期学校建築の指標となる遺構としても重要です。 令和4年度は、半解体修理及び設備工事等を行いました。	学校法人 遺愛学院
重要文化財 (建造物)	函館ハリス トス正教会 復活聖堂	函館ハリストス正教会は明治40年(1907年)の函館大火で聖堂を焼失した後、大正5年(1916年)に煉瓦造で再建されました。 正教会聖堂の標準的な構成になる数少ない煉瓦造の本格建築であり、ロシア、ビザンチン様式を基本とした変化に富む外観は意匠的にも優れ、正教会聖堂の代表的な建築として高い価値があります。 令和4年度は、構造補強及び部分修理を行いました。	函館ハリ ストス正 教会
重要文化財 (建造物)	旧花田家番 屋	旧花田家番屋は明治38年(1905年)に建築され、北海道に残る大型鯨漁場建築の数少ない遺構で、ヤン衆(雇漁夫)の宿泊設備がよく残っており、北海道の風土色にあふれる建築で盛時の鯨漁を知る好資料です。 令和4年度は、耐震診断事業を行いました。	小平町
重要文化財 (建造物)	旧日本郵船 株式会社小 樽支店 ほか3棟	明治39年(1906年)に竣工した石造二階建の建築で、内部の照明器具、暖炉など当初のものがよく残っています。なお、明治39年の樺太国境画定会議はこの建物で行われ、歴史的遺構でもあります。 令和4年度は、耐震補強及び部分修理を行いました。	小樽市

重要文化財 (建造物)	北海道庁旧 本庁舎	<p>明治21年(1888年)に竣工の煉瓦造地上二階地下一階建の官庁建築です。屋根はスレート葺。中央部に八角塔屋を設け、外装は、要所に石材を混用した煉瓦積です。</p> <p>壁面は柱型に二重アーチを造出し二重窓を設けています。内部は明治44年(1911年)改修時の形式で、屋根及びドーム等は当初形式に復原し、我が国における大規模な煉瓦造建造物の初期遺構です。</p> <p>令和4年度は、耐震補強及び部分修理等を行いました。</p>	北海道
----------------	--------------	---	-----



重要文化財「遺愛学院(旧遺愛女学校)本館」
(函館市)



重要文化財「函館ハリストス正教会」
(函館市)



重要文化財「旧花田家番屋」(小平町)



重要文化財「日本郵船株式会社小樽支店」
(小樽市)



重要文化財「北海道庁旧本庁舎」(札幌市)

● 美術工芸品

種 別	名 称	概 要	事 業 者
重要文化財 (考古資料)	北海道上之國 勝山館跡出土品	北海道上之國勝山館跡出土品は、15～16世紀（室町時代～安土・桃山時代）の城館跡から出土した、木製品、漆器、金属製品、骨角製品、繊維製品などからなる貴重な考古資料です。 令和4年度は破損物の保存修理事業及び公開・保存を目的とした、保存台及び保存箱の製作を行いました。	上ノ国町
重要文化財 (考古資料)	北海道船泊遺跡 出土品	縄文時代後期中葉の集落跡と集団墓地、及び作業場跡等から出土した副葬品で、とりわけ貝製品には、房総半島以南に生息するタカラ貝など、遠隔地から搬入された貝類を素材とした装身具が含まれ、当時の広域な物資交易をよく示す、貴重な資料となっています。 令和4年度は、破損物の保存修理及び公開・保存を目的とした保存箱の製作を行いました。	礼文町
重要文化財 (歴史資料)	開拓使文書	開拓使文書は、開拓使札幌本庁、その前身の箱館府等において、作成、収受、編綴された近代行政文書であり、明治政府による北海道の近代化の諸政策を知る上での貴重な資料です。 平成27年度から令和5年度の9年間の計画で、破損した原本の保存修理事業を行っています。	北海道
美術工芸品	ノリウツギ栽培	手漉き和紙「宇弥紙」の原料であるノリウツギは、国宝・重要文化財となっている書画や掛軸等の修復に不可欠であります。近年、材料の確保が困難になってきています。 標津町ではノリウツギの採取や試験栽培に取り組んでおり、令和4年度は、町内の種苗業者による苗木生産、森林組合による原料の採取・加工、町役場による町民向け体験講演会等を行いました。	古瀬山林種苗農園
	ノリウツギ採取・加工		標津町森林組合 標津町



重要文化財「北海道上之國勝山館跡出土品」(上ノ国町)



重要文化財「北海道船泊遺跡出土品」
(札文町)



同左のうち貝平玉



重要文化財「開拓使文書」(北海道)



ノリウツギ採取の様子(標津町)

(2) 重要伝統的建造物群保存地区・重要文化的景観

種 別	名 称	概 要	事 業 者
重要伝統的建造物群保存地区	函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区	<p>函館市元町末広地区は旧外国公館や寺院・教会、レンガ造の倉庫群、上下和洋折衷の町家などが建ちならび、異国情緒の濃い町並みを形成しています。</p> <p>この歴史的な町並みを大切にするため、選定となった平成元年度から建築物所有者の理解と協力を得ながら、伝統的建造物の修理、一般建築物の修景、環境物件の復旧などを継続的に行っています。</p> <p>令和4年度は、黒田家住宅、蕎麦彩彩久留葉の修理事業を実施しました。</p>	函館市
重要文化的景観	アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観	<p>「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、アイヌ文化の諸要素を現在に至るまでとどめながら、開拓期以降の農林業に伴う土地利用がその上に展開することによって、多文化の重層としての様相を示す極めて貴重な文化的景観です。</p> <p>令和4年度は、追加選定に向けた調査や普及啓発活動を進めました。</p>	平取町

○函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区（函館市）



「黒田家住宅」



「蕎麦彩彩久留葉」

○アイヌの伝統と沙流川流域の文化的景観（平取町）



「チャサンケ（舟下ろしの儀式）」

(3) 史跡・名勝・天然記念物

種 別	名 称	概 要	事 業 者
特別史跡	五 稜 郭 跡	<p>五稜郭は箱館奉行所の防御施設として元治元年(1864)に完成し、日本の建築・土木技術の伝統と西欧の城塞設計の思想が融合した特色ある城郭です。</p> <p>令和4年度は堀排水口部石垣の保存修理等を行いました。</p>	函 館 市
史 跡	松 前 氏 城 跡 福 山 城 跡 館 城 跡	<p>福山城は松前城とも呼ばれ、安政元年(1854)に完成した城です。海からの攻撃に備えた台場(砲台)が城内外にあり、また城跡の背後には藩政時代から続く寺町が今も残ります。</p> <p>令和4年度は福山城跡の本丸地区で石垣の3次元レーザー計測及びカルテ作成を実施しました。</p>	松 前 町
史 跡	常 呂 遺 跡	<p>常呂遺跡は常呂川河口付近からサロマ湖東岸に及ぶ広大な遺跡で、地表に窪みとして残る竪穴住居跡は2,700ヶ所を超え、独特の景観を作り出しています。</p> <p>令和4年度は園路整備等を実施しました。</p>	北 見 市
史 跡	上 之 国 館 跡 花 沢 館 跡 洲 崎 館 跡 勝 山 館 跡	<p>上之国館跡は15世紀に和人の拠点として設けられた、北海道では数少ない中世城館の変遷がうかがえる史跡です。</p> <p>令和4年度は今後の保存活用・整備計画のために、勝山館跡及び洲崎館跡で発掘調査を実施しました。</p>	上ノ国町
史 跡	旧 島 松 駅 通 所	<p>旧島松駅通所は明治6年札幌本道の開発に伴って設置され、明治以降最も早く設置された主要道沿いの駅通所で、北海道開拓・交通史を伝える史跡です。</p> <p>令和4年度は主屋の耐震補強・保存修理基本設計書を作成しました。</p>	北 広 島 市

史 跡	鷺ノ木遺跡	鷺ノ木遺跡は縄文時代後期の大規模な環状列石、竪穴墓域などが発見されており、縄文時代の墓制・祭祀を考える上で重要な遺跡です。 令和4年度は史跡整備に伴い環状列石内で発掘調査を実施しました。	森 町
史 跡	キウス周堤墓群	キウス周堤墓群は縄文時代後期の集団墓地で、地面を円形に掘りくぼめその土を周囲に環状に積み上げて構築した北海道に固有の墓地遺構です。 令和4年度は史跡整備事業に伴い、周堤墓の発掘調査を実施しました。	千 歳 市
史 跡	松前氏城跡館城跡	松前氏城跡館城跡は、松前氏最後の本城で、明治元年に築城された藩の城跡であり、北海道の幕末から維新期を知る上で重要な遺跡です。 令和4年度は今後の史跡整備のために、水文調査や植物調査を実施しました。	厚沢部町
史 跡	カリンバ遺跡	カリンバ遺跡は、縄文時代の大規模な墓地で、漆製品等の豊富な副葬品が出土しています。 令和4年度は、史跡整備として、史跡低地面を流れるカリンバ川右岸にアプローチ階段の設置を行いました。	恵 庭 市
史 跡	白老仙台藩陣屋跡	白老仙台藩陣屋跡は、幕末の北方警備のため仙台藩によって築かれた遺跡である。 令和4年度は、史跡整備に先立ち外曲輪の土塁のうち、東御門及び枳形土塁が所在したと想定される範囲を対象に発掘調査を実施しました。	白 老 町
史 跡	旧奥行臼駅通所	旧奥行臼駅通所は、根室と別海を結ぶ交通の要衝として設置され、北海道開拓を担う駅通制度を知ることができる遺跡である。 令和4年度は、奥行臼史跡公園整備基本計画について検討を行いました。	別 海 町

<p>特別天然 記念物</p>	<p>野幌原始林</p>	<p>野幌原始林は野幌丘陵に所在するトドマツと落葉広葉樹を主体とする針広混交林の原生林で、令和元年に範囲が追加指定されました。</p> <p>令和4年度は追加指定地の植生調査を実施し、専門家による委員会で調査方法などを検討しました。</p>	<p>北広島市</p>
---------------------	--------------	--	-------------